

おおた社会福祉士会会報

第82号

2015年(平成27年)9月11日発行

発行：おおた社会福祉士会事務局

責任者：田端千英

連絡先：〒146-0082 東京都大田区池上7-13-14

電話・FAX 03-6410-6051

E-MAIL otachikukai@gmail.com



(メール配信への切り替えをご希望される方は、「お名前」と「メール配信希望」の旨をこちらまでお願いします。)

7月定例会報告「すべての子どもが健やかに成長できる地域をめざして」

ケアマネジメントチーム 生駒 友一

7月15日(水)に子ども・子育て支援新制度の勉強会「なぜ今、子ども・子育て支援『新』制度なのか?」～すべての子どもが健やかに成長できる地域をめざして～を開催しました。子ども・子育て支援新制度とは、わが国の少子化の急速な進行や子ども・子育てをめぐる厳しい現状に対応し、幼児期の学校教育・保育の充実、地域における子ども・子育て支援の充実などを総合的に推進するための取り組みです。新制度の勉強会を通じて、大田区のまちの現状や課題などを共有して、子どもの最善の利益のため



に私たちが今それぞれの立場で、できること・やるべきことを一緒に考えていくことが狙いでした。

定例会に先立ち、6月下旬よりチラシ配布を始めました。お手伝いしてくださる方もいて、児童館を中心に60ヶ所ほどの大田区内の施設を回り、計200枚強のチラシを配ることができました。チラシの効果、そして講師の方のお声かけもありまして、当日は40名以上の方にご来場いただきました。

講師には、横浜英克氏(大田区こども家庭部子育て支援課係長)と、當間紀子氏(子ども幸せ研究所監事/につぼん子育て応援団事務局)をお迎えしました。2013年8月より大田区子ども・子育て会議が13回に及び開催され、2015年3月に「おおた子ども・子育てかがやきプラン」が策定されました。大田区子ども・子育て会議の事務局としてプラン策定にご尽力されてきた横浜氏には、概要版の資料を用いて大田区の取り組みについて丁寧にご説明いただきました。當間氏は、大田区男女平等推進啓発誌「パステル」編集委

員、大田区子ども家庭支援センター運営委員、大田区次世代育成支援行動計画推進会議委員、大田区教育懇談会委員、大田区地域保健福祉計画推進会議委員を歴任されてきました。また、内閣府においては、子ども・子育て支援新制度フォーラム企画委員会委員調査企画・評価委員会委員、地方版子ども・子育て会議の取組事例に関する調査企画・評価委員会委員としてご活躍されてきました。この日のためにオリジナル資料「子どもとの暮らしを応援するためにできること」をご用意していただき、ご自身の来歴から子ども・子育て支援にかかわるようになった背景や、実践のなかで培われた行政の役割・区民の役割などの知見をご披露いただきました。

質疑応答では参加者から多くの質問が出て活発な意見交換がなされ、盛会のうちに定例会を終えることができました。他地域においては、区民版の子ども・子育て会議を定期的に行っているところもあります。課題を共有し、解決に向けた提案を協議する場こそが、今日のネットワークに求められていることでしょう。大田区においても、今後このような場を定期的に設けていくことは意義があります。その思いを一層強く持つ日となりました。



ソーシャルワーカーデー東京 2015のご報告 「プロジェクトチームメンバーより一言頂戴しました」

8月9日（日）、大田区民ホールアブリコ小ホールにて、ソーシャルワーカーデー東京2015『感動のギフト～ソーシャルワーカーのあなたは、誰にどんなギフトを贈りますか？～』を開催しました。当日は115名の方にご来場いただき、盛況のうちに無事に終わることができました。

本イベントでは、東京社会福祉士会の理事や事務局の皆様、おた社会福祉士会のメンバーはもちろん、他地区の社会福祉士会に所属されている皆様も互いに一緒になってプロジェクトチームを結成して、企画・運営・実行をいたしました。プロジェクトチームに参加された皆様より一言メッセージを頂戴しましたので、ご紹介してイベントの報告に代えさせていただきます。

「温故知新」

東京社会福祉士会の原動力は、地区社会福祉士会で持ち回りでやっていた、研究大会であったと言っても過言ではありません。

研究大会が途絶え、新たな形で息を吹きすさっかけを求めているときに、おた地区会との共催による、ソーシャルワーカーデーを開催することができました。古き良きことを大切にしつつ、その時々にあったやり方で、途切れることなく継続していくことの大切さ



を多くの皆様と共有していきたいと思ひます。

【東京社会福祉士会理事 森田 智仁】

当初、予算も時間も絶望的（笑）なスタートでしたが、力と知恵を寄せ集めて、なんとかできた～というレベルではなく、それぞれの夢を凝縮することができたと思ひます。今こそ、その過程で得たノウハウを来年に引き継ぎながら、また夢を膨らませる時期です。楽しい時間を共有できたこと、すべてのみなさまに感謝しております。

【おおた社会福祉士会役員 平野 悟】

裏方らしく三次会までの会場係を淡々と？させて頂きました！

社会福祉士会の殻を破る良いイベントになったと思ひています。

【おおた社会福祉士会役員 中村 一孝】



二次会運営係としては充実感を持って楽しくお手伝いさせていただきました。

イベント準備や当日の運営を通じて、普段のお仕事ではあまりお話する機会の少ない所属地区会以外の会員の方々ともご一緒できた事は、これから様々なお仕事の場面で私の糧になると思ひます。

イベントとしても、福祉アイドルという発想はとてもインパクトがあり、型にはまらないソーシャルワーカー像を印象付けられました。

このイベントが「過去の伝説の1回」に終わらず来年以降も発展することをお祈りします。

ありがとうございました。

【おおた社会福祉士会会員 加藤 奈央】





リレーエッセイ 松村 零那

生まれ育った関西で社会福祉士を取得し上京したのは、もう7年も前のことです。

認知症対応型デイサービスでの介護、相談員職を経て、現在の職場であるダンススタジオ“ERINA. STUDIO FIT”と巡り合い、一見福祉とは関係のないように見える世界に足を踏み入れました。

ダンススタジオではキッズダンス講師としても活動し、3～9歳の子供達と地域のイベントに出演するなど、これまでになかった経験を経ることができました。

その講師経験の中で気付いたことが一つあります。それは、子供達それぞれの個性に寄り添いながら共に成長していくという過程は、福祉に通ずるところがあるということです。その想いは私が福祉をもっと学びたいと思った原点になっています。

社会福祉士会への入会は、そんな「もっと学びたい」という想いからでしたが、それを後押ししてくれたのが、2015年から始まったシニア向けダンス体操講座の存在でした。大田区内老人いきいの家8カ所での講座をスタジオが担当することとなり、地域の方の健康づくりのお手伝いができる機会を頂いたのです。

今まで携わってきたダンスと介護予防の取り組みが融合し、一つの形になったことを嬉しく感じた一方、身近に利用できるこのような資源を知らない方が大勢いるということを残念に思いました。

そんな想いを頂きながら自分にできることを考えていくうちに学びの場である社会福祉士会の存在を知り、幅広い分野でご活躍されている社会福祉士の方々と出逢うことができました。



私はまだ入会して間もないのですが、先日行われたソーシャルワーカーデーのイベント運営側としてお手伝いをする機会にも恵まれました。このイベントを通じて感じたことは、福祉は特別な形が決まっているものではないということ。そして、私が巡り巡って今いる場所に辿り着いたように、福祉は私達の身近な場所にあるものだということです。

まだまだ認知度が低いと言われていた社会福祉士ですが、私は人と人を繋ぐ魅力的な存在であると感じています。そんな社会福祉士という存在をより多くの方に知って頂き、当たり前のように社会福祉士が側にいるという地域社会の実現を目指すこと。それは、私の今の目標の一つです。

自身の活動もまだ始まったばかりですが、社会福祉士会で学びを深め、一歩ずつ歩みを進めていきたいと思えます。

9月・10月 定例会のお知らせ

9月 定例会「シニアステーション」について

日時：9月16日（水）午後7時～8時30分

内容：高齢者の元気維持・介護予防から最適な介護サービスへの切れ目のない支援提供を目的に、（仮称）大田区シニアステーション事業実施方針が打ち出され、平成28年度4月からモデル事業実施のための検討が進められています。

9月定例会では、大田区福祉部高齢福祉課・介護基盤担当課から「シニアステーション」についてご報告いただきます。

参加費：500円（資料代）

担当：地域福祉チーム

定例会の会場

大田区消費者生活センター2階
第6集会室（大田区蒲田5-13-26）
電話：03-3736-7711

※10月定例会は、隣の第5集会室となります。

10月 定例会「生活困窮者自立支援」

日時：10月21日（水）午後7時～8時30分

内容：大田区生活再建・就労サポートセンター（JOBOTA^{ジョボタ}）の取り組みについて所長よりご説明いただきます。

※JOB=働く OTA=大田区

経済的に困り、生活・仕事・住まいのことなどで悩んでいる方のための無料相談窓口です。

参加費：500円（資料代）

担当：ケアマネジメントチーム

編集後記

「きゃりーぱみゅぱみゅ みぱみゅぱみゅ あわせてぱみゅぱみゅ むぱみゅぱみゅ」。ソーシャルワーカーデー第3部ソーシャルパネルディスカッションで、限定ユニット「ケアドル」を率いて参加してくれた福祉アイドルさちこさんが、「大田パソコン文字通訳の会」を紹介してくれた場面です。さながらバンドメンバー紹介で、ソロ演奏を振るかのように。その早口言葉のアドリブに見事に高速入力に応じて、瞬時にスクリーンに文字が浮かびました。文字による情報保障の大切さを、笑いや感動とともにさりげなくも印象的に伝えてくださいました。（いこま）